

## PCの一層の発展を願う



池田 尚治\*

「プレストレストコンクリート」誌第37巻1号の発刊に当たり、平成7年の第1号ということで、新しい年を迎えたことに對し巻頭の辭を述べさせていただきます。

昨年は当技術協会にとって充実した年であったように思われます。すなわち、一昨年から実施を始めたプレストレストコンクリート技士(PC技士)認定試験の第2回目の試験を1994年10月6日に無事に実施することができ、この制度もほぼ完全に軌道にのったものと思われまゝ。この制度の定着は今後のPC技術の向上普及に相當に寄与するものと考えられます。今後は公共工事の入札に際し、技術力が正當に評価されなければなりません。単に価格の競争のみに走っては結果として耐久的で經濟的な構造物を建設することは困難です。そういう意味でPC技士認定制度の確立はまさに時宜を得たものと言えるでしょう。PC技術協会がこのような制度を実施するからにはPC技術協会自身がPC技術の中心的存在となつてゆくことが求められます。そこで、昨年より技術協会の中に「PC技術規準研究委員会」を発足させることといたしました。この委員会は、PCに関する各種の技術規準やガイドラインなどのPC技術の設計施工上のベースを提案し、最新のPC技術の健全な発展と普及を図ろうとするものです。従来より、これらの規準類は、土木学会や建築学会で作られてきましたが、PC技術の発展が速いために必ずしも今後の対応がスムーズに運ばないことが考えられることと、本来このような提案は本技術協会が中心となつて進める必要があるとの認識に立つたからです。幸い、多くの会員の方々の御賛同を得て、委員会および分科会を発足させることができ、ようやく活動を開始することができました。当面は分科会として、(1)外ケーブル構造・プレキャストセグメント分科会、(2)PPC分科会、(3)耐久性向上分科会の3分科会に活動を限定しますが、これらについての成果がある程度得られた時点で分科会の種類を増やしていきたいと思ひます。会員の皆様の積極的な御支援をお願いいたします。

本技術協会では、1990年より「プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」と称する国内シンポジウムを実施してきており、1990年は金沢、1991年は奈良、1992年は福岡でそれぞれ開催して、我が国のPCに関する最新の情報がこの国内シンポジウムで発表されるようになってきました。1993年は京都でFIPとの共同主催でPCに関する国際シンポジウムを開催したために国内シンポジウムはこの年には行いませんでしたので、第4回の国内シンポジウムを昨年の10月に札幌で開催いたしましたところ、前回は上回る90編の論文が寄せられ活気のあるシンポジウムとすることができました。また、特別講演として元北海道開発局土木研究所長の太田利隆博士によるPC橋の耐久性に関する

\* Shoji IKEDA : 本協会理事・会長、横浜国立大学工学部教授

◇巻頭言◇

る御講演、および建設省土木研究所の川島一彦博士によるノースリッジ地震による橋梁被害の御講演をお願いすることができ、参加者に大きな感銘を与えることができました。今やこの国内シンポジウムはPC技術の発展のフォーラムとして完全に定着したものと思われ、毎回のシンポジウム論文集も貴重なデータバンクとなってきました。なお、今年の国内シンポジウムは、10月12日（木）、13日（金）の2日間にわたり山陰地方の松江市で開催することが決定しております。会員諸氏の積極的な御参加と御支援とをお願いいたします。

本技術協会では恒例により2月頃を中心に例年PC技術に関する講習会を実施しており、今年は第23回目となりますが、毎年2000名近い聴講者を得ておりPC技術の情報提供の場としての役割を果たしております。なお、PC技士受験者のための講習会はこれとは独立に開催することとし、昨年9月28日に東京で実施いたしました。

本技術協会の業務の中で最も各会員と直接関係のあるものとして会誌「プレストレストコンクリート」の発刊があります。これについては会誌編集委員会が山崎淳委員長のもとで鋭意努力いたしております。今年からは何とか大幅な発行の遅れのないようになるものと期待しております。

本技術協会の総会は例年5月に実施しており、総会終了後には技術協会賞の授与を行うことが恒例となっております。ここ数年の状況では、総会への出席者は必ずしも多くないので、折角の機会でもあり、今後は特別講演なども総会前に行うなどして総会時に会員および役員の交流と意識の向上ができればよいものと思われまます。

以上に述べたように、本技術協会は、新春の訪れとともにPC技術講習会、新緑の頃に総会、初秋にPC技士講習会、中秋に国内シンポジウム、その後にPC技士試験といった催し事を行うパターンとなってきました。これに加えて各種委員会が開催され、会誌の定期的な発行もありますので事務局は相当地に多忙です。幸い、昨年より事務所スペースも広くなり会議室も専有できるようになりましたので、今後は機能的で充実した運営ができるものと思われまます。会員諸氏におかれましては今後とも本技術協会の活動を積極的に御支援賜わるとともに、本技術協会を通じてPC技術の発展に御尽力賜わりますようお願いいたします。昨今、PC構造物の耐久性の問題がクローズアップされておりますが、耐久性の問題はPCに限ったことではなく、鋼構造物やRC構造物でもそれぞれに問題を抱えており眞剣に対応がなされております。

PC関係者は今までの経験と実績とをよく学び、一層の自信のあるPC構造物を世に出していただきたいと思ひます。会員諸氏の増々の御活躍をお祈りいたします。